リレートーク #169

紹介者
飯塚 哲哉
ザインエレクトロニクス
取締役社長

あらためて「天は自ら助くる者を助く」

神山 治貴
マクニカ
取締役会長

周知のように、日本の経済は「失われた10年」といわれて既に20年が過ぎてしまった。ちょうど10年前にある講演で、台湾の新興半導体会社の若手経営者が日本を評して、「かつて戦後の荒廃から立ち直り、急成長して栄華を誇ったが、この10年間は石が坂を転がるように経済が低下して、今なお転がり落ち続けている国」と表現していて、衝撃を受けたことを今でも鮮明に思い出す。

かつては英国病、米国病ともいわれ、両国の経済が長年にわたって低迷したが、それぞれサッチャー、レーガンという強いリーダーシップを持った政治家が現れ、経済再生を果たしたといわれる。そして日本にもそのような政治家の出現を待望する記事をよく目にする。それはそれで結構だが、待ち人がすぐに現れるとは限らない。今ある中で、今持っている中で、自分たちが知恵を絞って頑張っていくしかない。

この数年、「想定外」という言葉がはやっている。この表現は、原因を他に求めたり、「だからやむを得ない」という言い訳で使われることが多い。本当にそうなのだろうか？　そんな理由がまかり通るなら、企業が立ち行かなくなった場合はどうなるのか。限られた一部の業種や一部の大企業を除き、通常は行き詰まったところで誰も助けてくれない。そもそも論だが、目標や計画を立てその実現に向けて頑張っていく中、付帯状況が想定内で変化を続けることは多くはない。仮に想定内で終始するなら、それはチャレンジをする対象ではなかったはずである。予期せぬことが起きても、不退転の覚悟で臨機応変に迅速に対処してきたのではないか。目標の実現に向けて、あるいは企業の存続を掛けて……。

以前にコーヒーメーカーのテレビCMで「違いがわかる男」というキャッチフレーズで次々と違う分野で活躍する人たちが出演していた。その人たちがコーヒーの味の違いが分かるかどうかはともかくも、彼らは自らの分野で違いをつくり、自分の価値を向上してきた人たちである。

当然企業も同様で、グローバルな競争の中で、自分たちの違いをつくり、価値を向上し、質を高める……一言で表現すれば「強くなる」ことに尽きる。あらためて、「天は自ら助くる者を助く」という言葉を考える。

次回リレートーク：高乗 正行（チップワンストップ　取締役社長）